

令和2年度

学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

- 講座実施日／令和2年11月3日（火・祝）
- アンケート実施日／事前アンケート：令和2年10月26日（月）
事後アンケート：令和2年11月30日（月）
- 対象／西九州大学短期大学部 幼児保育学科 1年生
- 人数／事前アンケート：88名
事後アンケート：88名

はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに、性別にとらわれずに自分らしく生きていくというまなびを通じて、男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

今年度は、西九州大学短期大学部 幼児保育学科の1年生を対象に、大阪教育大学教育学部の准教授で保育学が専門の小崎 恭弘（こざき やすひろ）さんに、「なりたい私になるためのライフデザイン」のテーマで、オンラインにより講演いただきました。

今回の講座では、社会の変化や価値観が多様化する現代において、どのように先を見据えて、自分の夢や希望を実現していくのかをライフデザインを通して考える機会とし、これからの就職活動や社会生活を送る上での参考にしてもらいたいとの思いから企画しました。

講演では、ライフデザインの必要性や、人生100年時代の生き方、モデル不在の時代の生き方等についてお話しいただきました。

講演後には、講師と同短期大学部の先生方とのトークセッションを行い、学生からの質問にも答えていただきました。

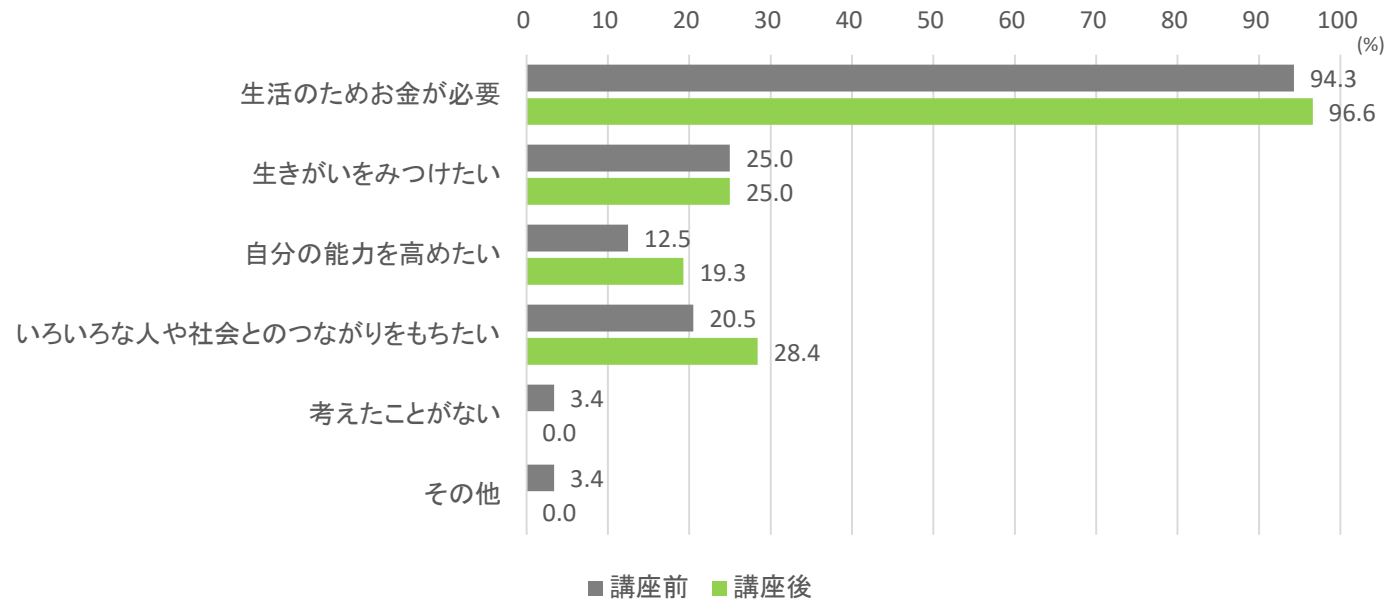
さらに今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を同短期大学部 幼児保育学科の1年生に限定したため、県内の他の大学の学生に向けて12月23日から1月31日までの期間、講演の録画配信を行いました。録画配信では240回再生され、多くの方に視聴いただくことができました。

また、毎年、講座に参加する前と後での意識の変化を見るために、講座の前後にアンケート調査を実施しています。

就職を控えた学生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）

問1 働く目的について、どのように考えるか。(複数回答可)



～問1「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・役に立ちたいから
- ・自分の人生をより良いものにするため
- ・人の役に立てる人間になりたい

【講座後アンケート】

無回答

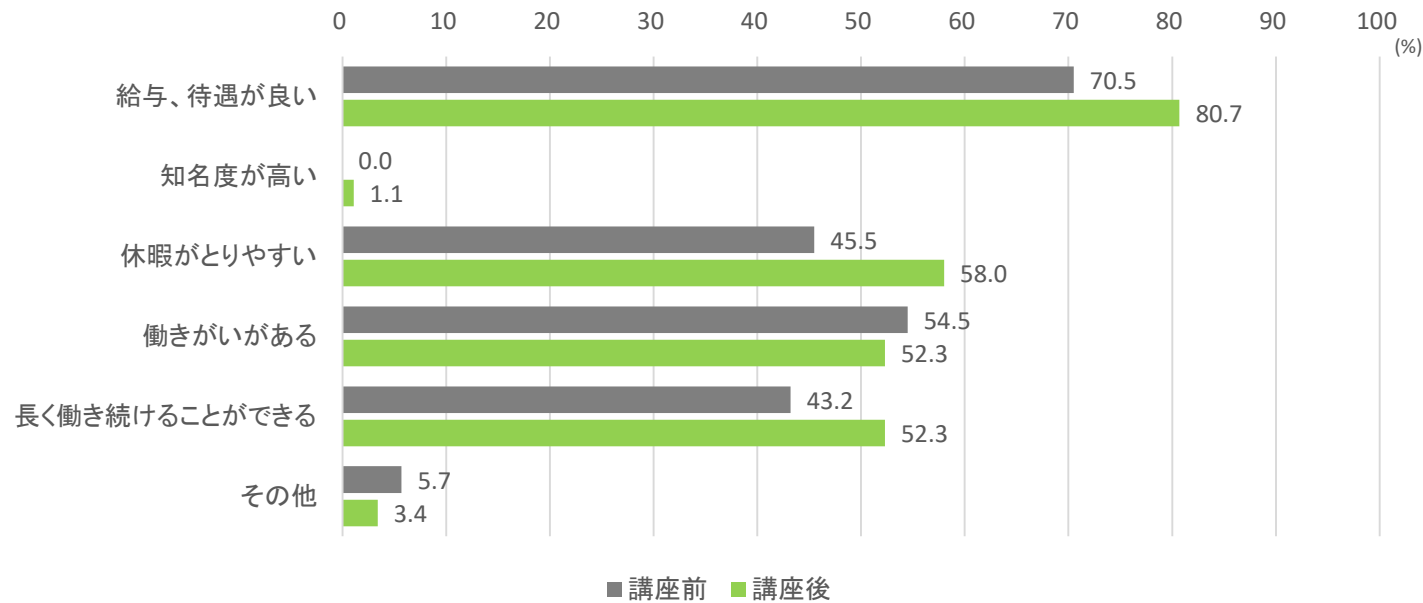
〔傾向〕

働く目的の問いでは、「生活のためにお金が必要」が講座の前後で9割を超えて最も多く、以下、「生きがいを見つけたい」、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」、「自分の能力を高めたい」の順であった。

講座後の主な変化として、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」は7.9%、「自分の能力を高めたい」は6.8%増加し、「考えたことがない」は、3.4%からゼロに減少した。

また、その他では、「役に立ちたい」の回答が複数見られた。

問2 就職先を選ぶ基準として、何を重視するか。(複数回答可)



～問2「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・人間関係（3）
- ・人間関係が良い（2）

【講座後アンケート】

- ・人間関係
- ・人間関係が良い
- ・距離（場所）

〔傾向〕

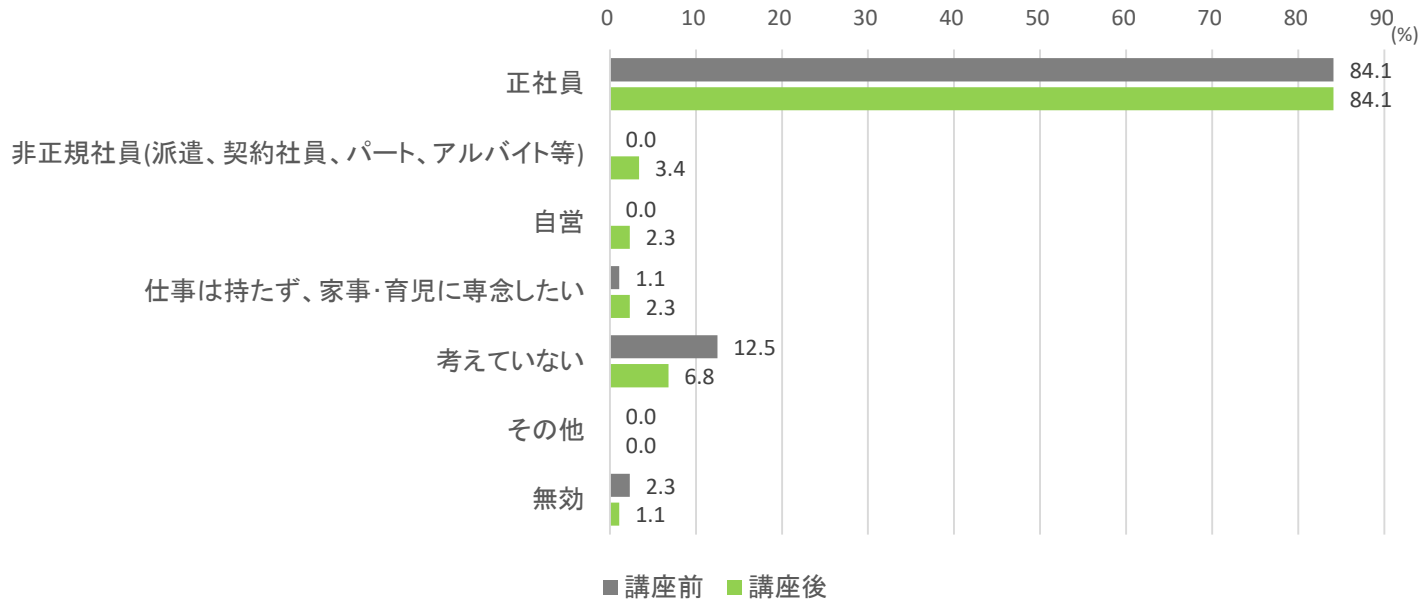
「就職先を選ぶ基準として、何を重視するか」の問いでは、「給与・待遇が良い」と回答した割合が、講座の前後で最も多かった。以下、「働きがいがある」、「休暇がとりやすい」、「長く働き続けることができる」の順であった。

一方、「知名度が高い」は、講座前の回答はゼロ、講座後は1.1%と低い回答率であった。

講座後の主な変化として、「休暇がとりやすい」は12.5%、「給与・待遇が良い」は10.2%、「長く働き続けることができる」は9.1%上昇した。

また、その他では、「人間関係」を重視する回答が複数見られた。

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。



～問3「その他」の回答～

【講座前アンケート】

無回答

【講座後アンケート】

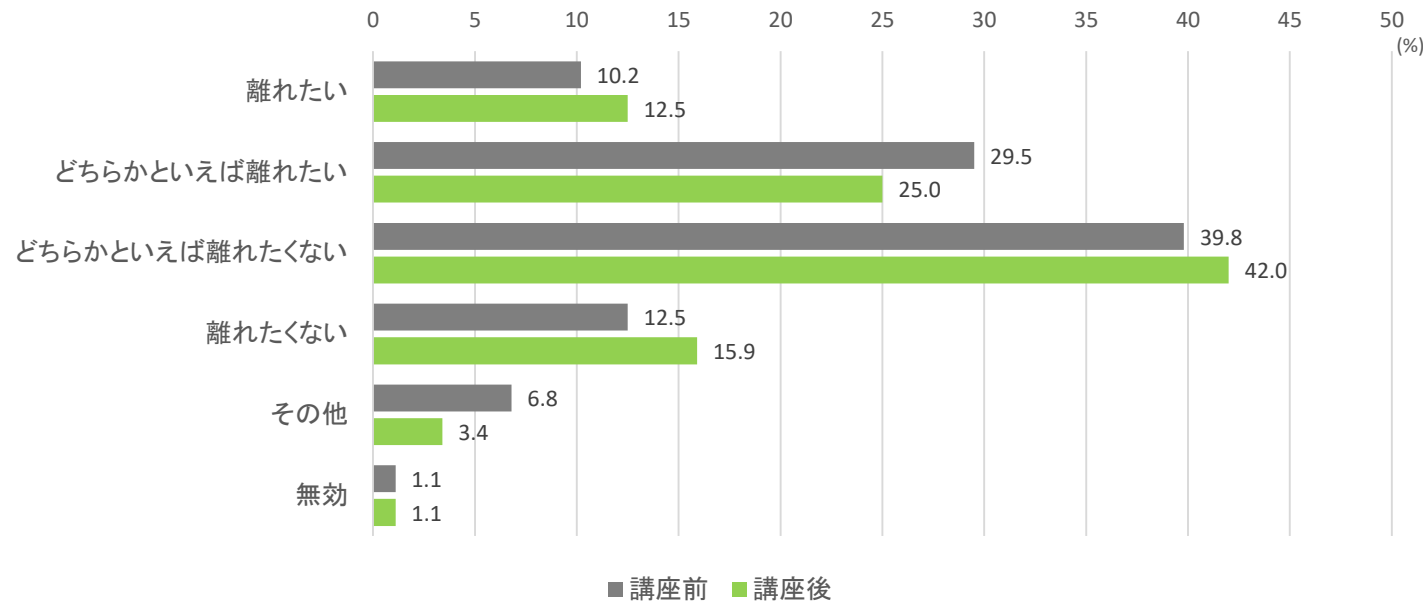
無回答

〔傾向〕

働くときの形態は、「正社員」と回答した割合が講座の前後とも8割を超えており、最も多かった。

講座後の主な変化としては、「考えていない」が5.7%減少した。

問4 働くときには地元を離れたいか。



～問4「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・どちらでも良い (3)
- ・条件による
- ・決めてない
- ・自分が働きたいと思えば、場所はあまり選ばない

【講座後アンケート】

- ・どちらでも良い
- ・特に考えていない
- ・良い職場なら場所は問わない

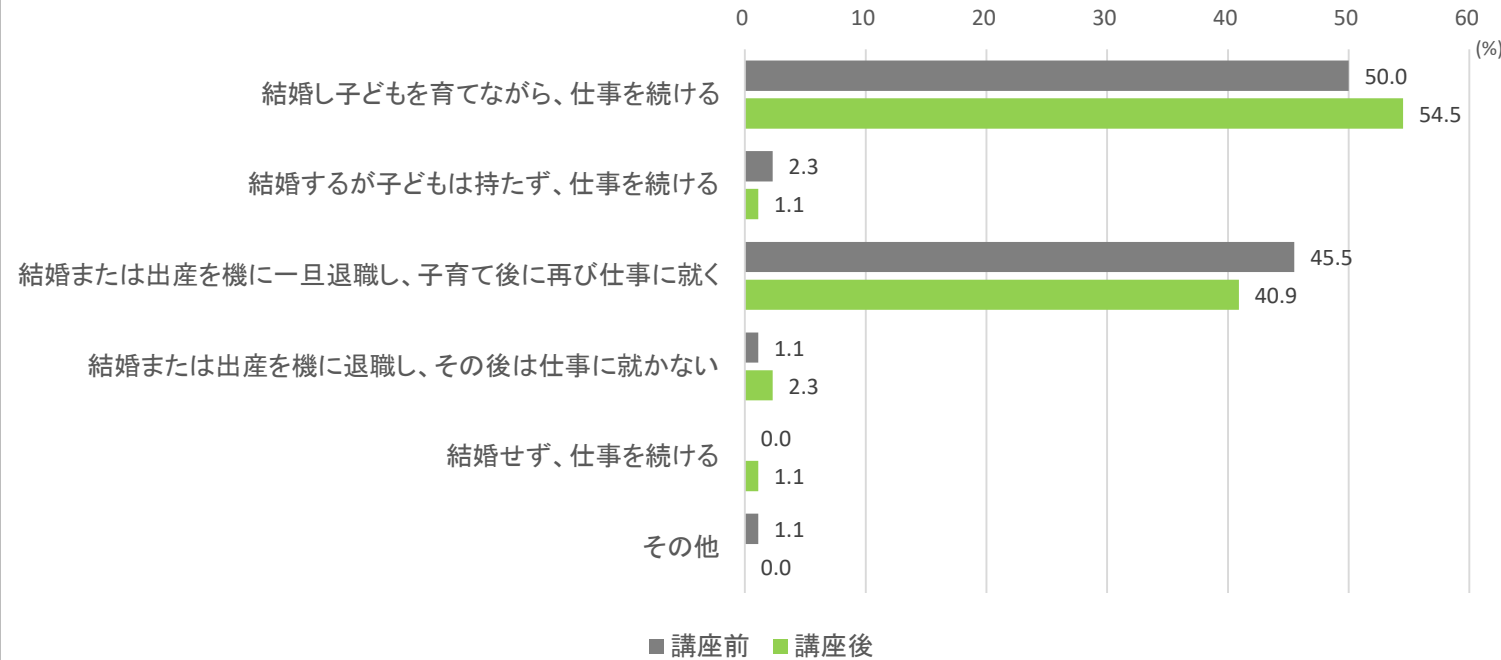
〔傾向〕

「働くときには地元を離れたいか」の問いでは、「どちらかといえば離れたくない」と回答した割合が、講座の前後で最も多かった。

講座後の主な変化として、「どちらかといえば離れたい」が4.5%減少し、「離れたくない」が3.4%増加した。

また、その他では、働く場所にはあまりこだわらない回答が複数見られた。

問5 女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか。



～問5「その他」の回答～

【講座前アンケート】

・どちらでも良い

【講座後アンケート】

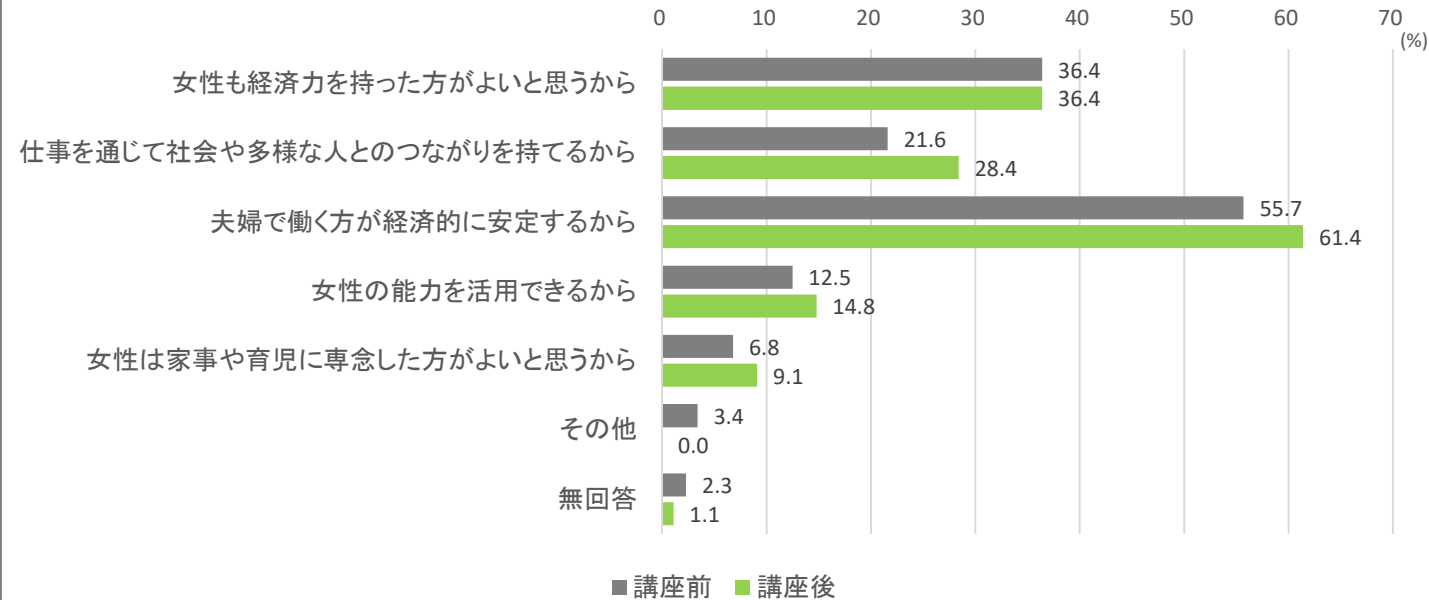
無回答

〔傾向〕

女性の働き方についての考えの問いでは、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」と回答した割合が最も多く、講座の前後とも全体の約半数を占めた。次に多かったのは、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」で、講座の前後で全体の4割を超えた。

また、講座後の主な変化として、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」は4.6%減少し、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」は4.5%増加した。

問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか。(複数回答可)



～問6「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・やりたいことをやるのが良いと思うから
- ・子どもを欲しいと思わないから
- ・産休、育休をもらい考える

【講座後アンケート】

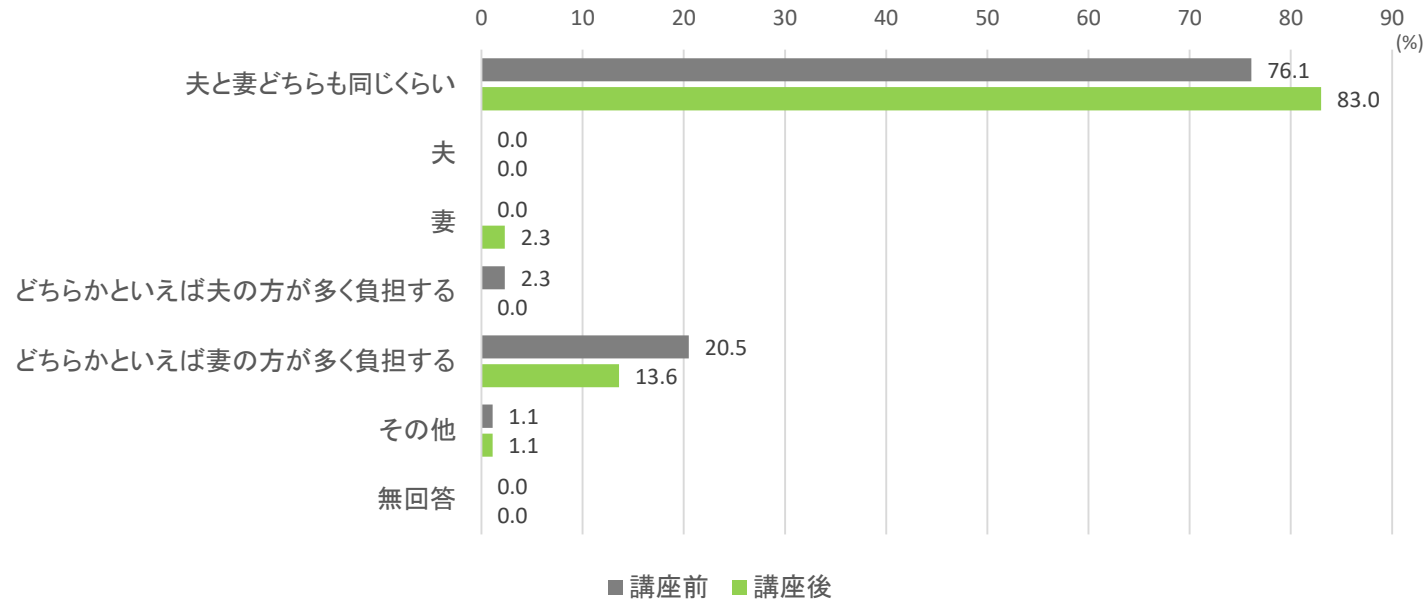
無回答

〔傾向〕

問5の女性の働き方についての考えの理由として、「夫婦で働く方が経済的に安定するから」と回答した割合が講座の前後で最も多く、以下、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」の順であった。

講座後の主な変化として、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」は6.8%、「夫婦で働く方が経済的に安定するから」は5.7%増加した。

問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。



～問7「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・家事は妻、育児は夫を中心

【講座後アンケート】

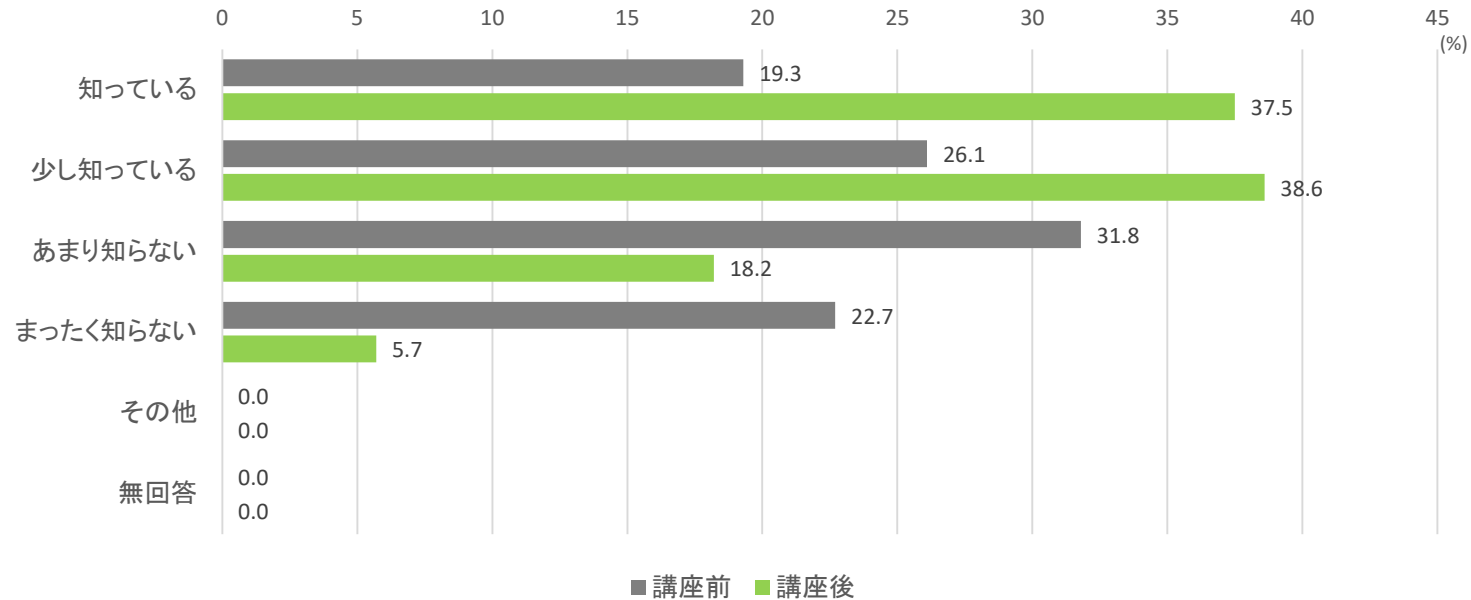
- ・同じくらい

〔傾向〕

結婚後の家事や育児の分担については、「夫と妻どちらも同じくらい」と回答した割合が講座の前後で最も多かった。

講座後の主な変化として、「夫と妻どちらも同じくらい」は6.9%増加し、「どちらかといえば妻の方が多く負担する」は6.9%減少した。

問8 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。



～問8「その他」の回答～

【講座前アンケート】

無回答

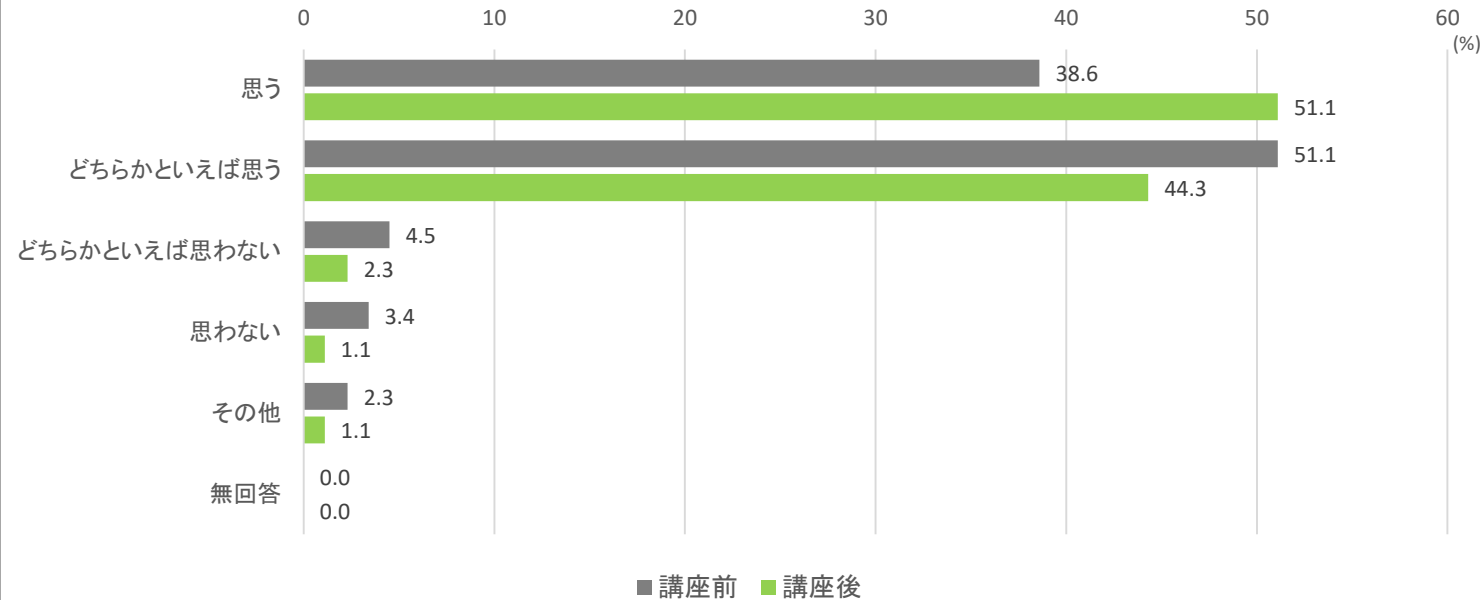
【講座後アンケート】

無回答

〔傾向〕

ワーク・ライフ・バランスの認知度については、講座前は「あまり知らない」「全く知らない」の合計が54.5%で、「知っている」「少し知っている」の合計45.4%を9.1%上回っていたが、講座後は、「知っている」「少し知っている」の合計が76.1%で、「あまり知らない」「全く知らない」の合計23.9%を52.2%と大きく上回り、講座前と逆転した。

問9 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか。



～問9「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・どちらでも良い
- ・男・女ではなく、能力で決まるべき

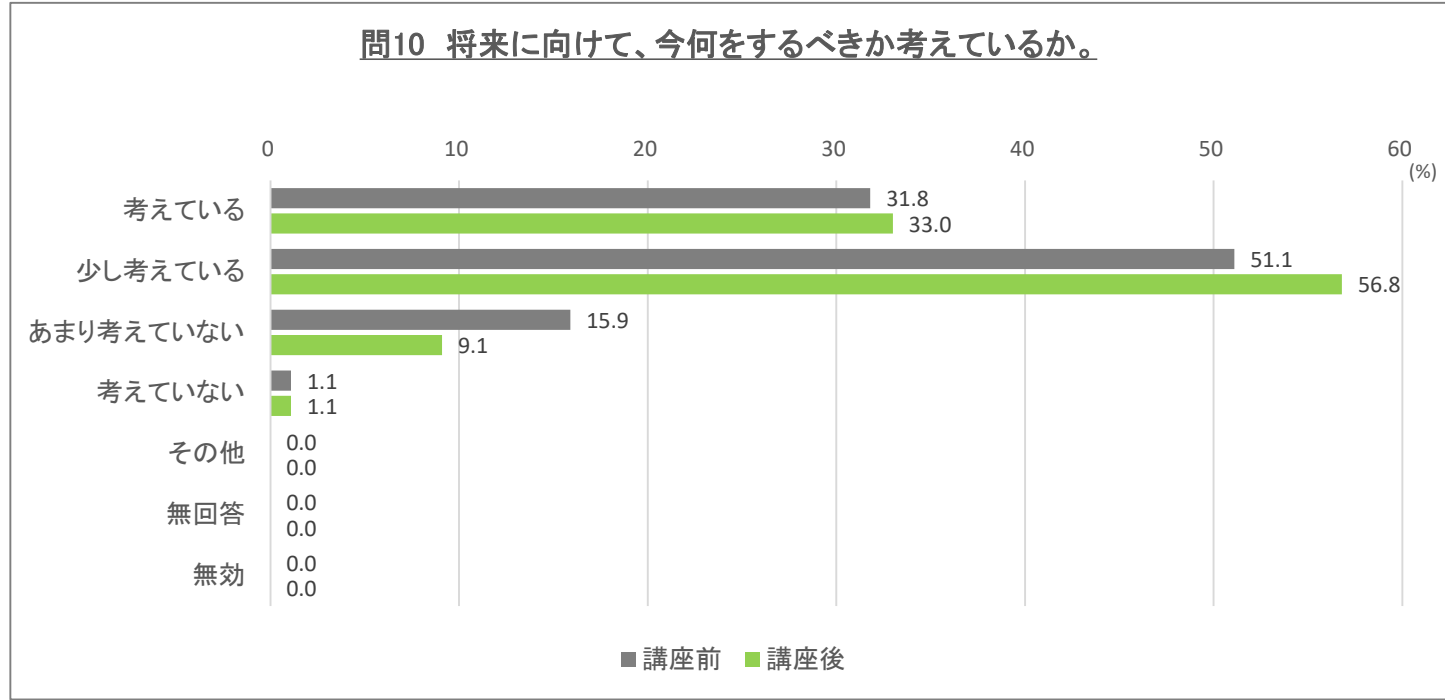
【講座後アンケート】

- ・男・女ではなく、能力で決めるべき

〔傾向〕

「あらゆる分野の役職に、今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、講座前は「どちらかといえば思う」が、「思う」を12.5%上回っていたが、講座後にはその割合が逆転し、「思う」が「どちらかといえば思う」を6.8%上回った。

また、講座後には、「どちらかといえば思わない」「思わない」の両方とも減少した。



～問10「その他」の回答～
 【講座前アンケート】
 無回答
 【講座後アンケート】
 無回答

〔傾向〕
 「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」の回答が最も多く、講座の前後で5割を超えた。
 また、講座後の主な変化として、「あまり考えていない」が6.8%減少した。

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、西九州大学短期大学部の学生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

○働く目的について

問1「働く目的」では、「生活のためにお金が必要」と答えた割合が最も多く、多くの学生が「生きるために働く」という意識を持っていることがうかがえます。また、講座後には「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」の回答が増えていますが、「人との出会いを始め、多くの機会、チャンスがいろんな意味で人生を広げていくことになる」との講師の言葉も、背景にあるのではないかと考えます。

○就職先を選ぶ基準について

問2「就職先を選ぶ基準」では、給与や待遇面、休暇の取りやすさなどが重視されていますが、講座後には「長く働き続けることができる」を重視する割合も増加しました。勤務先を選ぶポイントとして、給与や待遇面だけでなく、例えば、「自分がどのような保育をしたいか」など自分自身が大切にしていることと、勤務先の方針とのマッチングが肝となること、また就職先の人間関係が気になりがちであるが、人間関係は自分次第で変えることができることを挙げられ、そのことが長く働き続けることにもつながるとの気づきが得られたのではないかと考えられます。

○働くときの形態について

問3「働くときにはどのような形態を選ぶか」では、8割を超える学生が「正社員」と回答しており、多くの学生が安定した雇用形態を望んでいることがわかります。また、講座後には「考えていない」の割合が減少し、講座を機に、自分の将来について具体的に考える学生が増えた結果ではないかと考えます。

○働くときに地元を離れることについて

問4「働くときには地元を離れたいか」では、地元志向の割合が高く、講座後にはさらにその割合が増えています。都会の方が高い収入は得られるものの生活費は多くかかるため、収入と暮らしやすさのバランスを考慮すると地元で働くことにもメリットがあるとのことから、より現実的に考えた結果が表れているのではないかと考えられます。また、その他の回答として、働く場所にはあまりこだわらない回答も複数あり、働く場所よりも、仕事の内容や職場環境を重視していることもうかがえます。

○女性の働き方に対する考え及びその理由について

問5「女性の働き方についての考え」及びその理由(問6)では、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が最も多く、「結婚または 出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が次に続きました。理由として、「夫婦で働く方が経済的に安定するから」の回答が最も多く、講座後はさらにその割合が増えました。終身雇用や年功序列の日本型雇用慣行の崩壊、また、「男性は仕事、女性は家庭」といったこれまでの前提が壊れていく社会背景について学んだことが影響しているのではないかと考えます。

○夫婦の家事分担について

問7「結婚後の夫婦の家事分担」では、「夫と妻どちらも同じくらい」の回答が大多数を占めており、講座後のアンケートではさらにその割合が増えました。また、「どちらかといえば妻の方が多く負担する」の回答は減少しました。これは、女性活躍推進の成功のカギは男性にあり、男性の家事・育児参画推進とセットで考えることの必要性を学んだことが影響しているのではないかと考えます。

○ワーク・ライフ・バランスの認知度について

問8「ワーク・ライフ・バランスの認知度」については、講座前は「あまり知らない」「まったく知らない」の合計が「知っている」「少し知っている」の合計を上回っていましたが、講座後にはその割合が逆転しました。ライフデザインの意義として、社会が大きく変化する中で、これまでのようにみんなが同じような生き方が出来づらい時代であり、これからは一人ひとりの自分らしい生き方や、その人が望む生活や暮らしを目指すことの大切さについて学びましたが、この学びにより、ワーク・ライフ・バランスを実践する大切さについての理解が進み、認知度の向上につながったのではないかと考えます。

○女性の役職への登用について

問9「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に、今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、講座前は「どちらかといえば思う」が過半数を占めていましたが、講座後には「思う」の方が過半数を占めました。講座では、これからの働き方として、雇われるだけでなく、例えば、自分の理想の保育をするために経営者になることも選択肢としてあることを話されました。今回、参加学生の8割以上は女性で、おそらく今までは雇われることしか考えがなかったと思われるので、自ら経営するという働き方の選択肢が増えたことも、回答の変化に多少影響しているのではないかと考えます。

○将来に向けての準備について

問10「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」も含め、大半の学生が考えており、講座後にはさらにその割合が増えました。今回の講座でライフデザインについて学んだことで、自身の将来について、積極的かつ具体的に考えるようになったのではないかと考えます。

今回の講座を通して、今までの生き方のモデルが参考にならないモデル不在の時代となりつつある現代において、自分自身のライフデザインとそれを実現するためのライフプランの必要性について、多くの学生に理解いただいたことが終了後のアンケートの感想からも読み取れました。今後、学生が、自分自身の生き方を自ら設計して主体的に生きる、つまり「自分の人生の主人公になる」生き方をするために、自ら考え、行動を起こすことの大切さについて、今回学んでいただけたのではないかと考えます。